



冬季・新年俳句会 (令和四年一月) 「句報」 兼題：除夜の鐘、門松 (子季語含む)

「選句」 赤文字：特選

「投句」 作品

作者

以	木枯らしに恩師悠々百歳翁 旅の寺おさなごの手とり除夜の鐘 旅の寺鐘ひびきををり百八つ バスを待つありがたき椅子冬真中 車好しスピードも良し年の暮	西村敏治 西村敏治 西村敏治 西村敏治 西村敏治
---	--	--------------------------------------

由	凍て星を天に貼りつけ雲去りぬ スカーフが小休止する枯れ木かな 目まで湯に沈めば渡る除夜の鐘 枯れ葉散る釈迦の苦行の像にまで 友逝きて水仙香る凜として	中野亘子 中野亘子 中野亘子 中野亘子 中野亘子
---	--	--------------------------------------

優多	鶴(ヒヨ)が去り雀集まる残り柿 コロナ去りまた異種コロナ年の暮れ 門松や遠くに去った昭和かな 風物詩下駄の音やら除夜の鐘 コロナ去り笑顔が戻り冬終わる	都 福仁 都 福仁 都 福仁 都 福仁 都 福仁
----	---	--------------------------------------

徳崎	煩惱を打ちはらいたり除夜の鐘 読めぬ季語辞書を頼りに初句会 書き終えし賀状三百筆の肉刺 料亭の門松淋しオミクロン 氷壁や響(とよ)むアイゼン空の青	戸堂博之 戸堂博之 戸堂博之 戸堂博之 戸堂博之
----	---	--------------------------------------

茂	戸を開らく僅かに花の見える迄	池川静男
佑	秋の蝶白く小さく訪れる ありし日々遠くに在りて冬墓参	富岡訓子
茂秀	枯木立梢のさきの薄き雲 年ごとの思ひさまま初日の出	富岡訓子
徳福多	白い波溶けてゆきたや芒原	富岡訓子



以	圭	展	徳	永佑優博	優	以多亘	圭佑
除夜の鐘 コロナの世界案じつつ 門松にSDGsふりそそぐ	桜並木たちまち雪の花が咲く	灰色の冬日シクラメンを買う	「あと一句」訪れを待つ冬の夕	身体反り檜木(しゅもく)一打や除夜の鐘	時移り余韻闇夜に除夜の鐘	紋のれん老舗代々門の松	大人びて成人式や赤ワイン
山家由紀	山家由紀	山家由紀	山家由紀	前田秀一	前田秀一	前田秀一	前田秀一

【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いします。

投句、選句者氏名

( ) 内は選句者略称(五十音順)

網 佑子(佑)、井狩 修(修)、池川静男(静)、岩崎悦子(崎) 岩壺克哉(克)、加龍恵子(恵)  
 楠野圭子(圭)、小松康子(康)、斎藤優子(優)、佐藤多恵子(多)、佐藤茂弘(茂)、戸堂博之(博)、  
 富岡訓子(訓)、中野亘子(亘)、中野陽典(陽)、西田 稔(稔)、西村敏治(敏)、野本展子(展)、  
 本多通博(通)、前田秀一(秀)、三木徳彦(徳)、都 福仁(福)、宮本智乃(智)、元永悦子(永)、  
 山家由紀(由)、吉澤志保子(志)、吉田以登(以)

編集人 前田秀一